

キール大学（イギリス）

今学期は4科目履修することとなりました。

Audiences: From Moral Panics to Digital Cultures

主にメディアと聴衆の関わりについて学ぶ授業です。

<授業形態> 週にlectureとseminarの2つが1時間ずつあり前者は教授がスライドを使って進める一斉授業でセミナーはディスカッション等議論をすることをメインとした授業です。

<学生数> 約20人

Sound for Moving Image

映画などで行われる効果音の後付けについて学ぶ授業です。どのように音を録音したり、日常で音を見つめるスキルを身につけたりする実践的な授業です。

<授業形態> 週に1回lectureがあります。2時間の授業で、授業内で講義・実践の両方を行います。

<学生数> 約20人

Film Style: History, Theory, Technology

映画産業の歴史や形態、また映画撮影に関する理論を学ぶ授業です。

<授業形態> 講義、ディスカッション

<学生数> 約20人

English for Academic Prepares

母語が英語でない留学生を対象とした授業で必須科目です。文献の書き方や英語で論文を書く、いわゆる学術的な英語の使い方について学びます。1セメスターから引き続き行われます。

<授業形態> 週に一回2時間の講義を行います。

<学生数> 約10人

モントリオール大学（カナダ）

正式な留学期間は終わり、大学の授業もなく夏休みですが、引き続きフランス語の授業は受け、日々フランス語の学習を頑張っています。留学初めの時よりもフランス語は理解でき、話せるようになってきました。その分、ケベック州で使われるフランス語（ケベコワ）の難しさをすごく実感します。特に聞き取りは難しく、スタンダードなフランス語に比べると早く、単語もはっきりと発音しないので難しいです。フランス語の授業はこのケベコワを中心に学ぶので、ケベック特有の表現や発音の仕方を学べてとても役に立ちます。

大学が終わり、今までよりも余裕ができたのもあり、友達と外出する機会が増えた。友達とカフェに行ったり、美術館に行ったりなどすごく特別なことはしていないが、モントリオールでできた友達と関われるのはとても楽しい。留学が終わってからは、お互い会うのは難しくなるのでできるかぎり帰るまでには多くの人と会って、思い出を作りたい。また、一年間が経ったことで、初めは友達との会話がほとんど英語だったが、今ではフランス語で話してくれて、そして自分もフランス語で返している。今までよりも友達との会話が楽しく感じます。

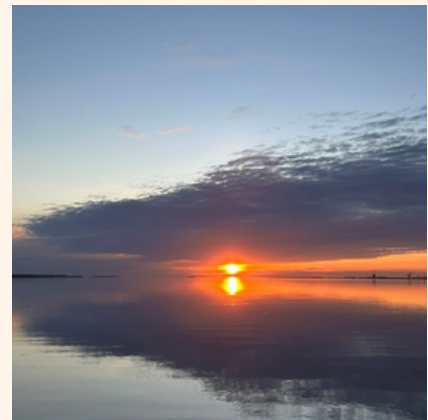
マレーシア科学大学（マレーシア）

Spring semesterも折り返しで、毎週、何かしらの教科のMid-term examやレポートの提出があります。特にmid-term examはしっかりとしたテストで、記述式の問題もあり範囲も広いです。そのため、テスト勉強に時間を割かなければいけず、レポートに取り組む時間がうまく取れていないのが現状です。今学期はやることが沢山あるので最近朝から夜まで図書館やカフェに籠る生活をしているので、単調な生活になりますが、休憩に友達と喋ったり、ご飯を食べにいくことで何とか楽しみを見出しています。

食生活の面で言うと、最近nasi kandarというペナン発祥のご飯がマイブームです。インド系移民にルーツがある、ご飯の上に好きなカレーや具材を選んで乗せるワンプレーットの料理です。留学に来た当初はnasi kandarの見た目があまり綺麗ではないので敬遠していたのですが、いざ食べてみると美味しく、具材もカレーの種類も沢山あるので気分によって変えることが出来ます。メインだけでも鶏肉、牛肉、魚、イカ、エビがあり、副菜にも様々な野菜や卵があります。（私のお気に入りにはキャベツの炒め物と牛ホルモン）またペナン発祥ということもあり、至る所にnasi kandar屋さんがあるので、発祥の地に住むことが出来て良かったと感じています。

オウル大学（フィンランド）

5月になったので暖くなるのかなと思っていたのですが、全然そんなことはなかったです。最高気温が10度のことがざらにあって、さすがフィンランド！！と思いました。また、日照時間はどんどん伸びてきて遂に真っ暗になることが無くなりました。夜の11時半過ぎに太陽が沈んだかと思ったら、朝の3時には太陽が昇るのでまるで異世界にいるみたいでした。夕方に昼寝をしたら起きた時の明るさに絶望するということがなかったため、夜の8時ぐらいに起きた時は全然寝てなかったかのような錯覚に陥りました。しかしそんな変な世界にも結局慣れ、人間の適応能力ってすごいなと改めて感じました。フィンランド人はこの環境をしっかりと楽しんでおり、外で釣りや球技をしたりしていました。



ド・モントフォート大学（イギリス）

Block teachingという制度で、どの授業も学部（Architecture）単位で行うため授業の学生数はすべて60～70名

Block4では対象とする建築物を現存するものの中から選び、それについての2000wordsのエッセイとillustrated journalというこれまで（Block1からBlock3まで）の学習成果とBlock4の授業内成果、そして2000wordsのエッセイを作成するにあたって作った対象の建物のモデルやその建物の用地分析などを一つのパワーポイントにまとめて提出するというものだった。一年間の学習の集大成としてこれまで学んだ建築物の分析方法を活用して多角的に分析し、論理的にまとめて提出した。アカデミックな内容が求められるためこれまで以上に英語力が試されるものとなり、語学面でも大きく成長につながったと思う。